KAGAWA GALAXY 吉田源治郎・幸の世界（６４）

昭和9年9月：室戸台風の被害を受けた四貫島商店街の様子

第 64 回　四貫島セツルメントと吉田源治郎（22）

上の写真は、説明にあるように昭和９年の室戸台風の時の四貫島である（『四貫島セツルメント創立８０周年・輝け命』２３頁より）。

９月２１日に西日本を襲ったこの台風は、大阪と神戸の間に上陸し、死者は不明を合わせて３０００人余り、負傷者は１万５千人を数える甚大な被害を与え、四貫島セツルメントも当然大変な損害を受けることになった。

既に第６１回で『四貫島セツルメント創設五十年記念：五十年のあゆみ』に記されていた「室戸台風」の項を取り出しているが、改めて次に再掲して置く。またそれに加えて、賀川豊彦が『雲の柱』１１月号の「旅から旅へ」に於いて、この時の取り組みの一端を書き記しているので、それも続けて収めて置きたい。

賀川はそこで「吉田源治郎氏が９月２１日以後殆ど家に帰らないで、同志と一緒に救済事業に努力してくれられた事はほんたうに嬉しかった」と書いている。
昭和９年の最大の出来事は、何といってもこの台風による街と人の被害と救援・復旧の取り組みにある。

(4) 室戸台風

昭和9年9月21日　室戸岬より紀淡海峡を北進して大阪を直撃し、勝山通りの気象台にあった風速計が60mを示したままでふき飛んだ大台風を「室戸台風」と呼ぶ。その日に四天王寺の五重の塔が倒れ、プール女学校はじめ多くの学校も倒壊、更に高潮による浸水も甚だしく、多くの人命、財産を奪った恐ろしい台風を記憶する人は今なお少なくない。

四貫島セツルメントの建物は床上約一メートル浸水、前述の北港児童館も大破、信徒の家庭も被害を受けたが、セツルメントは総力を挙げて救援活動を開始した。朝日新聞社会事業団、大阪キリスト教奉仕団と協力し、セツルメントでは西九条・四貫島・春日出・堺三宝浜各所に臨時保育所を開設し、一カ月ほど無料保育・無料給食などを実施した。西九条保育所への応援に対し、高松宮様より感謝の金一封を受けた事は、当時としては大きなはげましになった。

かくして平和の時にも、困難の時にもセツルメントの働きはたゆまずに続けられた。

旅から旅へ

コヒヨト

九月二十一日の突發事件で、私のプログラムは全部引繰返つてしまつた。キリスト傳の小說は未完成のまゝ捨てられてあり、私は、書齋を外にして十月中は十日間も東海道の汽車の中で寢ることになつた私が大阪に下つたのは九月三十日の夜であつたそれから私は、少しバラックの建設についてあちこちを奔走したり、また歸つてきて內務省に陳願したりして、大阪市のいやがるバラックをたうとう建てゝ貰つた。大阪市はバラックを建てゝくれたが、函館流の圓仕切のない實に不親切なものを建てゝしまつた。私は日本の公吏の不親切な氣持に憤慨を禁じ得ない。

九月の末に函館では、まだ八千九百人の人々が圓仕切のないバラックに住んでゐた。その主な理由は、あまり罹災者によくすると、後始末に困るといふことそれだけであつた。これらの人々が道德的にどんなに傷付かうと、不眞少年がどんなに發生しようと敢て問題にしない點に公吏達の理想がある。

一日東京に歸つてきた私は、また十月七日に西下した。そして一週間大阪で暮り、外島保養院の再興、大阪北港埋立ヶ島のバラック建設、堺三寶村方面の視察等に一生懸命に駈げずり廻つた。堺市三寶村の被害は人命五百、損害數千萬圓であつたが、その損害の原因が、コンクリートの材料にする砂を每晩二十艘が取りにきたために、三寶の海岸にあつた松林が消失せ、松林の消失とともに土手が崩れ、この大きな損害を招いたといふことである。で、日本の海岸の松林を大事にして、津浪や高潮を防ぐやうにしなければ、必ず恐ろしい災害が日本に來るだらう。

大阪はもう大體片付いた。それに就ても考へることは、日本の床下の構造の惡いことである日本の建築法を改正して、床をもう少し上げるやうにしなければ、日本の死亡率は減らないやうな氣がする。

十月十四日の晩、日曜日を幸ひに、大阪の電氣工組合の會館をかりて「災厄と宗教」といふ講演をした。五百人はかりきて、六十數名の宗教的同志が與へられた。唯物史觀一點張りだつた勞働者の會館をかりて宗教講演が出來ることは、私にとつては實に意味深いことであつた。

◇吉田絃治郎氏が九月二十一日以後吟ど家に歸らないで、同志と一緒に救濟事業に努力してくれられた事はほんたうに嬉しかつた。また東京から幼稚園の保姆さんが三人、託兒場の手傳の婦人が二人、ピアノオルガンの修繕に戸川氏が行かれ、合計六人が手傳ひに出掛けた。また建築ギルドから五人の大工さんが來仕事に到下した。

こんどの大阪の救濟事業で氣の付いた事は、佛教や天理教が、もう全くキリスト教の社會事業と同じことが出來るやうになつたといふことである。それらの團體は金も多くあり、人手もあるのでよき印象を與へてゐる。殊に天理教は一日三千名以上の農民を接出して、同じ印袢纏を着て、街の大掃除をして廻つたので、大阪市民は絶大なる感謝を彼等に捧げてゐる。

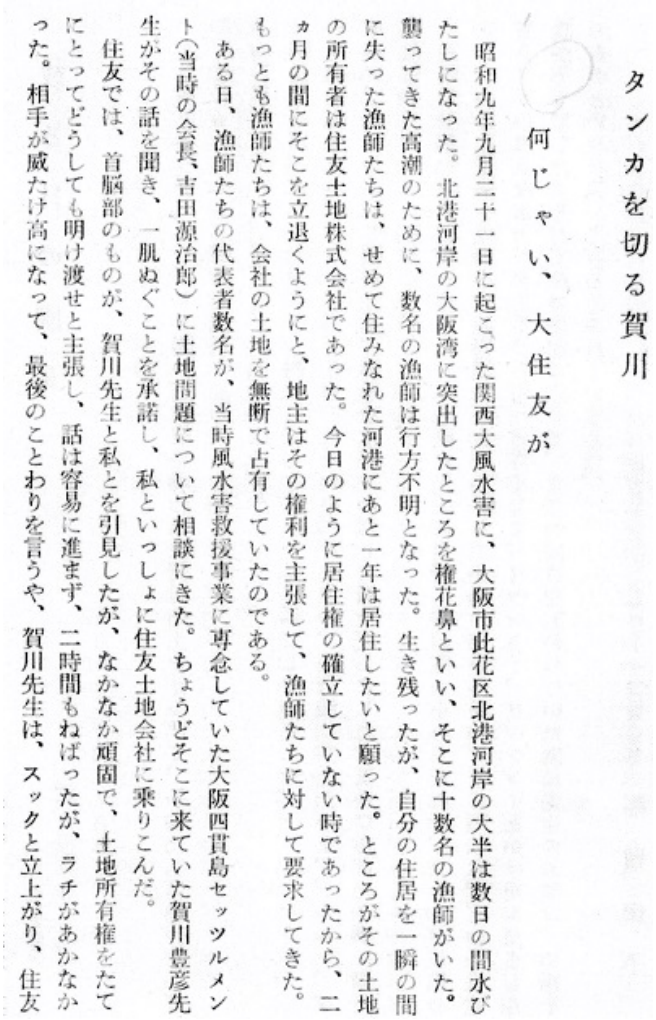
大阪に行つたついでに神戸の移民收容所を見た。そして甲斐々々しく海外に出て行く人々のすることを見て嬉しかつた。あの調子で亞細亞大陸に行つてくれるとほんとにいゝがなアと私は思つた。政府が少し腹を決めてやれば何でもない事だと私は思ふ。たゞ移民收容所でポルトガル語を敎へてゐたが、ローマ綴りを用ひないで、假名でやつてゐるのがをかしく思へた。あれは初めからローマ綴りにやつてほしいものである。

『雲の柱』11 月号「旅より旅へ」より

吉田源治郎「タンカを切る賀川

何じゃい、大住友が」

（『百三人の賀川伝』キリスト新聞社、昭和３５年、２５０頁～２５１頁）より。



タンカを切る賀川

何じゃい、大住友が

昭和九年九月二十一日に起こった関西大風水害に、大阪市此花区北港河岸の大半は数日の間水びたしになった。北港河岸の大阪湾に突出したところを権花鼻といい、そこに十数名の漁師がいた。襲ってきた高潮のために、数名の漁師は行方不明となった。生き残ったが、自分の住居を一瞬の間に失った漁師たちは、せめて住みなれた河港にあと一年は居住したいと願った。ところがその土地の所有者は住友土地株式会社であった。今日のように居住権の確立していない時であったから、二ヵ月の間にそこを立退くようにと、地主はその権利を主張して、漁師たちに対して要求してきた。もっとも漁師たちは、会社の土地を無断で占有していたのである。

ある日、漁師たちの代表者数名が、当時風水害救援事業に専念していた大阪四貫島セッツルメント（当時の会長、吉田源治郎）に土地問題について相談にきた。ちょうどそこに来ていた賀川豊彦先生がその話を聞き、一肌ぬぐことを承諾し、私といっしょに住友土地会社に乗りこんだ。

住友では、首脳部のものが、賀川先生と私とを引見したが、なかなか頑固で、土地所有権をたてにとってどうしても明け渡せと主張し、話は容易に進まず、二時間もねばったが、ラチがあかなかった。相手が威たけ高になって、最後のことわりを言うや、賀川先生は、スックと立上がり、住友の幹部を睨めつけたかと思うと、部屋一杯にひびきわたるドラ声をはりあげた。

「何じゃい、大住友たるものが――これくらいのことに。額の上のハイ一疋位の土地やないか。漁師もたくさん死んでいるんだ。そんなケチなことを言いおると、死んだ漁師たちは住友を恨んで、幽霊になって出てくるぞ――」

この大声に私までドキッとした。生れて初めて賀川先生のタンカを聞いたのだ。このタンカがきいたのか、住友の幹部は係の者を呼んで何かヒソヒソ話していたが、賀川先生と私とが保証人になるなら、漁師たちがもう一年、島にいることを承諾すると申し出た。

それで話がまとまったのであった。

ここまで昭和９年の最も大きな出来事であった９月２１日の「室戸台風」に関わる事を取り上げてきた。

ところで取り上げ方が前後するが、昭和９年も１月２日から５日間の「イエスの友関西冬期福音学校」を「一麦寮」を会場にして開催し、年の始めのスタートをしている。

そしてこれも恒例の「第８回日本農民福音学校」も１月１１日から２月１０日までの１ヶ月間、杉山・賀川・吉田・藤崎・升崎・マヤス・村島・遊佐・中島・岩崎・山本ほか豪家な講師陣で開催し、勿論会場は同じ「一麦寮」である。

さらにこの年も、７月６日から２９日まで「第１２回イエスの友夏期修養会と全国大会」が御殿場町・高根学園で開催され、吉田源治郎も「兄弟愛史上に輝く三大明星」と題して講演を試みている。「火の柱」第７７号（昭和９年８月）には、「吉田先生の「人形芝居」が秀逸であった」とあるが、どんなものであったのであろう。

下の写真は、同じ紙面に「感激と瞑想の四日間」の見出しの修養会の模様の囲み記事の中に小さく収められていたもので、拡大しても顔も特定出来ないものなので、このまま収めて置く。

吉田源治郎の論文「母性教育についての一考察―成人教育の一面としての」（『雲の柱』昭和９年６月号所収）

この年の吉田源治郎の論文をひとつ取り出して置きたい。

母性教育についての一考察

——成人教育の一面としての——

吉田源治郎

マザー・クラフト教練の重要性

成人教育は、考へやうに依れば、随分、多面的であり、多岐でもあるが、——例へば、公民教育、勞働者補習學校、一般文化教育、デンマーク式國民高等學校、勞働學校等々——其の重要性から、又、其の影響から考へてマザー・クラフト・ツレーニング（母性技能の訓育）は、確かに、それの尤も根本的なものの一つであると云つてよい。三田谷博士も、しきりに母性學の教養の必要を說いて居られるが、根本的に考へれば、たしかに之は、民族興廢の契機をすら把握するものであると云へよう。

勿論、本能には、驚異に價するものがあるけれど、然し本能を純化し、整理し、科學的に活用するところに文化の進歩は始まるものであつて、一國の民族的保健を考へる場合、兒童保護の徹底を期ふ場合、我等は、子女の教養を單なる生來的な、傳襲的母性本能に全部的に委せ切れないのである。そこに母性學の習熟の必要が稱へられ、母性クラフト習熟の重要性が主張される由縁がある。

私は、假りに、マザー・クラフトを分つて、(一)生理的クラフト、(二)心理的クラフト、(三)榮養クラフト、(四)經濟クラフト、(五)其他の一般的クラフトとする（勿論、之は、ほんの便宜上の分け方で、識者の教示を乞ふてより妥當な分類を試みたいのである）そこで、私は、兒保事業のプログラムに於て重要な一役割を占める成人教育としてのマザー・クラフトについて、此の半年間、相當考究した結果、之まで、行きあたりばつたりに開設してゐた「母親學校」と云ふものの再編成に思ひ至つた。

私は、兼ねがねロンドンに於けるマザー・クラフト・ツレーニング・ソサイティのことを聞及んでゐたので、其の方面のことも調べてみたいと思つて、出來るだけの努力をしてみた。私は

私自らが、今實驗しつゝある「母性教育」を述べる前に、英國に於けるそれが、どういふものであるかを茲に略叙することゝしたい。

英國に於ける母性教概觀

今より約十五年前、ニュージーランドのチー・ヴルビー・キング博士が、ロンドンで創設されたのが、同國に於ける最初の組織的な母性教育の事業であるとせられてゐる。キング博士は、もと〳〵精神病醫であつて、非常に趣味の廣汎な人であつた。殊に、貧者の方面にも造詣深く、動物愛護の精神強く、植物、草花を特に愛愛された。

博士が、ニュージーランド及び英國で母性教育に劃期的な大教育事業を完成せられたについては、一つの挿話がある。然もそれが我國の農家の一婦人の母性愛と關係してゐるのである。

話は、日露戰役の頃に遡るが、その頃、博士にとつての一つの疑問は、何故、日本は、あの大國ロシアに勝ちえたかと云ふことであつた。殊に醫學者である氏にとつて考へられたことは日本人がかの戰役で示した驚異的な戰勝の背後には、必ずや、乳兒時代よりの保育方法に何か特殊なものがあるに相違ないと云ふことであつた。それで、氏は、新婚旅行を愛ねて來朝され先づ、長崎に上陸されたが、一日、雲仙山麓の千々岩村に於てある農婦が、乳兒に、何のこだわりもなく青空の下で、母乳哺育をしてゐる光景を見て、こゝだと博士は大なる感激を受けたあゝ偉なる乳房、母乳榮養の國民、こゝに日本民族戰勝の祕訣がある。かうしたことが動機となつて、博士は、母乳榮養論者となり、次いで、今日の大教育事業を完成せられるに至つたのである。

ロンドンのマザー・クラフト・ツレーニング・ソサイティは、かくして、博士に依つて創設せられ、總裁には、ヨークの妃殿下を仰ぎ、各貴婦人たちを主幹とし、監督にミス・レデア、醫務監督にデュスベリ博士をいたゞき、其の下に十餘名の指導者を以て母性教育の一大師等をつくり、先づ母體の肉體的訓練と母乳による榮養を本位として、各方面に、盛な活動を展開してゐる。

此のソサイティへ入學するには、高等女學校卒業以上の教育を有するもので、未婚の女性は茲で一箇年の課程を修めて後、上中流家庭のガバネス（保育婦）になる資格が與へられる。助産婦の免狀の所有者は、三箇月乃至六箇月。看護婦及び、公衆衛生婦の資格（三箇年以上實務の經驗を有するもの）を有するものは、三箇月の修學にて、母性教育の指導者となることが出來る。此の外に、結婚適齢者、及び直ちに母となる人々のためには、特に、短期（六週間）の特別講習が開設される。

マザー・クラフトの課程としては、兒童心理、解剖、衛生學育兒法、看護法、榮養學（母乳榮養、人工榮養、混合榮養、離乳期の食餌榮養、幼兒の榮養）衣服のつくり方、洗濯、乳幼兒

健康相談等である。此のソサイテイは、母性保護及び其の教養が、如何に重大であるかを認知するために、凡てが、濃厚な宗教的雰囲気の中で行はれてゐる。之は、母性教育の指導、——又母性技能の習熟そのものが、一つの聖職であると云ふ観念から来てゐる。そのために、此のソサイテイの學生たちは、毎早朝、總拜堂で總拜をすることである。それは「如何なる技術も、經驗も、信仰に依つて行はされば、——殊に、育兒については、信仰なくして、充分な働きは出來ない」との信念に因るものである。

此ソサイテイの定員は、一年講習のもの三十人、半年講習一一之は一年二回開設——のもの（助産婦、看護婦のため）二十五人となつてゐる。

英國では、看護婦の教育の程度が高く、すべて、高女卒以上のものでないと資格を與へられない。此のソサイテイでは、特に、セント・トーマス病院看護婦學校（これが有名なフロレンス・ナイチンゲール看護婦學校である）の出身者を多く入學せしめる。又此の病院には、小兒科にマザー、クラフト科があり病院の小兒科婦長に任命される者は、必ずこゝで、此のコースを講習することになつてゐる。

又こゝには、完備せる乳兒院があり、健康な乳兒とその母親が六人——いづれも母乳榮養——及び、榮養障害の乳兒三十七人が收容されてゐる。そして、ソサイテイの講習生の實習場となつてゐる。彼等は、此の乳兒院を實驗室として、實地に當つて、育兒、榮養法、看護法の訓練を受ける組織になつてゐる。此の乳兒院への入院、手當を受けるためには、一定の料金の徴收と云ふ事はなく、富めるものは多額を、貧しき者は、ほんの些細な金額を自由に備付のボックスへ入れることになつてゐる

マザー・クラフト・ツレーニング・ソサイテイは、大略以上のやうな仕事をしてゐるのであるが、その維持は、此の協會から發賣する榮養品の純益金年額六千ポンドと、講習生の納める學費同じく一千ポンド餘と、衛生省下附金六百ポンド、贊助會員からの收入約百三十ポンド、總計七千七百三十ポンドの收入で經營されてゐる（此の項は同ソサイテイ修了者眞島智茂子姉の好意による）

以上記したところに依つてみるに、ロンドンのソサイテイは主として、私の呼ぶ『生理的クラフト』を中心とした母性教育を施すところであるが、かうしたマザー・クラフト訓練所が、乳幼兒保護協會や、產院と關係して、我國に設立されることを私は、翹望して止まないものであるが、さうした專門的な母性教育機關の外に、私は、社會事業機關——特に、幼稚園、託兒所、小兒保健所、セツルメント、訪問看護婦事業と關係して、一般的な、母性大衆を對象とするマザー・クラフト・ツレーニング・スクール（母性學校、母性技術訓練所とでも名づくべき）の開設を望むものである。

我國に於ける母性教育の現狀

筆者寡聞のため、我國に於ける母性教育の概觀を記すだけの充分な、文獻及び、資料を今持合してゐないので、茲に、其の近狀を充分說くことは出來ないのであるが、狹い範圍の見聞と手にした資料だけに依つて云ふことを許していたゞけるとしたら、次のやうに云へば當らずと云へども遠からずではないかと思ふ。

我國の母性教育——母の會——兩親再教育——の實際は(一)個發的であつて、系統的でない、(二)偏倚的であつて、母性クラフト全般に亙らない、(三)詰込的であつて、實習の機會を充分與へない、(四)短期的であつて學校の名實を備へたものは稀少である、(五)母性クラフトについての標準的なカリキュラムがどこにもない——と、かう云つて私は、見當をあまりに外れた斷定を下してゐるであらうか。

私は茲に、參考のため母性クラフトの教育のために少からず留意して居らるゝ數箇所の一年間の母性教育のプログラムを擧書きすることゝする。

かつて、大阪のクンパス女學院(保育專修部を有す)では、其の附屬幼稚園と關係して、可なり長期の——大體、普通學校の學期別に從ふ、一週一回開設の母親學校を試みたことがあつた。それはたしか、四年間位續けて開かれてゐた。今茲にその詳細を語る資料を手にしないが、それは大體から云つて、兒童問題を中心とした文化教育であつたやうに聞いてゐる。勿論かうした試みも女性への成人教育として一つの位置が與へらるべきであることは云ふ迄もない。三田谷博士を中心とする母性教育の運動も決して看過することを許さない大きな教育運動である。茲に、その全貌を摘錄しえないことは遺憾であるが、同博士は、我國に於て、母性教育の開拓者の有數なる一人者であると云つてよい。

尙、大阪乳幼兒保護協會が、その保護館及び他の場所に於て又その數ある小兒保健所に於て「母の會」又は「母親學校」の名の下に開設せられつゝある各種の會も、私は特筆することを忘れないであらう。茲を云へば、その「母親學校」は、短期なること、課目の偏倚的なること、會場の位置、及び、時間から考へて、一般無產母性の利用の便がどうかと思はれる點があるが、若し、あゝしたものが、もつと度々開設せられ、然も系統ある課程に基づき、所謂「前の母」「後の母」の教育訓練に、それ〴〵充分に留意した巡回式の母親學校の形式を以て一般化されるならば、それ程有益であらうかと思はれる——さうした巡回母親學校と併設して「榮養展」又は「兒童保育展」の如きが開かれ、毎年、定期的に、年に數回、託兒所、幼稚園、保健所、セツルメントなどを巡回するやうな制度を是非つくつてほしいものである。ドイツには農村社會教育事業としての「ウワンダー・ムッター・シューレ」が在つて、醫師、心理學者、看護婦が

一組となつて、一箇所一週間内外づつ巡回する組織がある。又さしづめ英國式のマザー・クラフト・ツレーニング・スクールの開設を私は要望して止まない。私の「英國式」と云ふのは小兒科看護婦、母性保護に關係する看護婦、助産婦、幼兒保育者、婚期の婦人、一般母性、母性教育の指導者の養成をすべてそこで施すと云ふ意味でのマザー・クラフト・スクールである（母性教育に少からぬ關係のある保健所、産院の助産婦、乳兒院の保姆託兒所の職員などは、是非かうしたツレーニングを受ける要があらう）かうした學校には、專門的なマザー・クラフトの研究所のあるは勿論、乳幼兒保育に關する實驗的ナースリー・スクールを併設してほしい。そして、そこには、幹部としては、幼兒教育の專門家、又は、公衆衛生の造詣のある小兒科醫がマザー・クラフトの主任技師として、その下に、ロンドンのツレーニング・ソサイティ程度の養成な受けた公衆衛生婦、又は助産婦保姆が、絶えず各方面のマザー・クラフトの實習、修練の指導にあたり、同時に、マザー・クラフトの指導者の養成に專心する。かうした機關の實現する機運を促したいものと思ふ。

私は、次に、母性教育のプログラムのいくつかを凡例として記してみやう。

（第一例）東京愛恵學園母性教育の課程（昭和六年二月から八年五月に亙つて實施）

1　ナースリー・スクールとは何か
2　子供の扱ひ方
3　子供に恐怖を與へる害
4　子供の服裝について
5　夏の衛生
6　榮養食について
7　精神講話
8　子供の身體について
9　クリスマスについて
10　食物の話
11　ナースリー時代の重要性
12　小兒傳染病の豫防（幻燈）
13　ブルマース講習會
14　夏期の衛生
15　ナースリー・スクールの重要性
16　子供とは
17　若き母親のために
18　子供の發達　等々

こゝでは、大體、月一回の割合で「母の會」を開き、保姆又は顧問醫（聖ルカ病院小兒科長）其他の兒童教育の專門家が講師となつて、母性教育の衝に當つてゐる。愛恵學園と云ふのは昭和六年二月より開設された我國では珍らしい米國式の嬰兒學校（ナースリー・スクール）である。滿一歳から幼兒を入校せしめて、母親たちと密接な

連絡をとつて幼兒教育につくしてゐる。

（第二例）大阪公衆衛生訪問婦協會、保育學校、母の會

八年度プラン

1 保育學校とは如何なるものか

2 子供の教育的取決（不良少年の扱ひ方）

3 一般衛生、疾病豫防と急救處置

4 實際的方面の講話例（子供の榮養）

5 教育的講話（童話）

6 ピクニック（景勝の必要を教へる意味と親睦を兼ねて）

7 家庭看護法の實習

8 主婦として心得るべき子供の衣服洗濯、アイロン法

9 小學校に入學する子供について

1 子供のしつけについて

（其他特別の日割にて料理講習）

茲では、大體三歳位から幼兒を入校せしめ、訪問婦事業と連絡を保ちつゝ、母性教育に新生面を開かうと努力して居られる

（第三例）大阪四貫島セツルメント自八年四月至九年三月母親學校プログラム

番號	日	曜時	講師	課目	會場	出席數
◇四月						
1	25	火夜	高崎 能樹（育兒）		四貫島	四一
2	26	水午後	保眞 せき（看護法）		北港	三七
3	27	木〃	檜垣 逸代（料理）		四貫島	二六
◇五月						
4	3	水〃	吉谷精太郎（問題の子供）		〃	五〇
5	8	月〃	榮養展覽會		〃	一六四
6	17	水〃	保眞 せき（ドライクリーニング）		〃	二四
7	25	木〃	檜垣 逸代（料理）		〃	三二
◇六月						
8	3	土〃	高桑富士子（育兒）		北港	七七
9	7	水〃	保眞 せき（寢所の整理）		〃	二四
10	22	木〃	檜垣 逸代（料理）		四貫島	二二
11	28	水〃	保眞 せき（病氣手當）		〃	二四
◇七月						
12	17	火〃	福本 靜子（オヤク）		〃	一六
◇九月						
13	30	土〃	眞島 智嵩（赤ン坊の體操）		〃	二七
◇十月						
14	12	木夜	高崎 能樹（料理）		四貫島	五三
◇十一月						
15	1	水午後	檜垣 逸代（料理）		北港	三九
16	8	水〃	キユクリセ（結人の關係）		〃	六三
17	9	木夜	キユクリセ（母としての結人）		四貫島	九三
18	20	月午後	保眞 せき（離乳期の食物）		〃	三一
◇九年二月						

19　23　金　〃　檜垣　逸代（料理）　〃　一七

◇三　月

20　5　月　〃　オールズ夫人（性教育）　北浦　四三

21　6　火　夜　オールズ夫人（性教育）　四貫島　三九

22　24　土　午後　檜垣　逸代（料理）　〃

母性教育の將來への展望

私は、マザー・クラフト・ツレーニングの重要性を思ふにつけて、何とかして我國に於ける養人教育の緊要な一面としての母性教育の指導者の養成、母性教育の普及、その系統的なコースの制定、マザー・クラフトをその教課の主要素とする花綾學校の必要等々を痛感するものである。殊に、母性教育の普及の重大性を考へさせらるゝのは、工場街、細民街に於ける母親たちへのそれである（進んでは農漁村に進出さるべきである）

こうした思念から、私は、私の關係してゐる四貫島セツルメントの「母性教育」の機關――それは、天使保育組合母親學校と呼ばれるもの――を一層整理し、再編成を試みることにしたそして目下の計畫では、一年間に十二回以上「母親學校」へ出席し、所定の學課を習得した母親――又は女性――には、一定のサーチフイケートを毎年三月の保育幼兒の保育修了式の時に授けやうと云ふのである。

試みに本年四月から六月初旬にかけて左記の如く八回の母親學校を開いたが、その主題目及び、指導者を示せば次の如くである。

主題目	指導者氏名	會衆	時日
1 幼兒しつけ方の要領	高崎　能樹	四一	四、二五夕
2 病兒看護保健の要領	保眞せき子	三七	二六晝
3 榮養料理	檜垣　逸子	二六	二七晝
4 問題の子供問題の親	古谷新太郎	五〇	五、三晝
5 火のしの使ひ方要領	保眞せき子	二四	一七晝
6 榮養料理	檜垣　逸子	三二	二五晝
7 家庭幼兒教育の實際	高桑富士子	七七	六、三晝
8 衣類の整理法	保眞せき子	二四	七晝

此の外には「榮養展」（公衆衛生訪問婦協會の手になる乳幼兒保護週間中の催しもの）を一回（五月八日午後半日、一六四人）と、上村維氏編の映畫「育兒の鑑」（保嬰館藏）二卷を母たちの會合で映寫した。（五月二十日夕、四〇名）

勿論、上記の課程は、まだ充分周匝であり、系統的であるとは云へない。本年秋期及び、冬期の學期に於ては、精神衛生、性教育その他、不備なるものを補足して、不完全乍らも一わたりマザー・クラフトの主要目についての習得を母親たちに授けえられるやう計畫中である。

さに角、此の小論に於て、私の特に力說したいことは、成人教育の一面としての母性教育の重要性と共の緊急性である――特に一般無産母性、非インテリ階級の母性にさつて。

私は、母性教育のプログラムとしては、上述の學校組織によ

るものの外に、幼兒保育への母親の參加（所謂母の保育當番、これは橋詰良一氏の創案である）の實施、保育幼兒のための榮養食調理への母親の參加、家庭訪問看護事業と關係しての母性への個人教育、母親への社會愛教育を意味する幼兒保育の協同組合組織による保育事業經營への母の直接參加等々――記したいことは少なからずあるが、それは、他日の機會にゆづることゝしやう。

今一つ實現を夢想してゐるものに、保育協同組合（私共の保育學校、母親學校の經營主體）への加入資格の擴大と云ふ事である。今のところ私たちの天使保育組合への加入者は、その幼兒を組合の保育學校に預託してゐる母親乃至は、保育學校の卒業生の母親に大體限られる傾向があるが、私は、之を擴張して一度、女性が母となつたならば、そのときから、保育組合へ加入する道を開き、産婦相談、乳幼兒相談、訪問看事業と關連して、母性保護、兒童保護の道を開き、出來るべくば英國式のナースリー・スクールの如き施設を設けて、そこに組合員の乳幼兒を收容して教護すると共に、一定のカリキュラムによる母性教育を施したいと思つてゐる。たゞへ、ナーズリー・スクールが、設備、經費の都合で急速に開設出來ないとしても、乳幼兒の保護を、生れぬ前から――母性保護から始めて行くことだけは、出來うる限り速やかに實現したいと思つてゐる。そして、さう云ふ關係の幼兒のみを組合の保育學校で收容することゝし學校行き前の一年保育なぞ云ふのは、なるべく受けないやうに保育方針を變へたいと思つてゐる。

橋蔵を動かす手は、世界を動かす手であることを思ふとき、我らは、凡ての社會施設を越えて、マザー・クラフトの修練のために、もつと〳〵熱意と努力を拂はなくてはならないと思ふ

附記　四貫島セツルメントでは、九年三月その天使保育學校の卒業式當日、一年間を通じて「母親學校」へ精勤した母十名に對して精勤證と賞品を授與した。精勤者十名の內譯は次の通りであつた。

二十二日の開校中

二十回出席	二名	十二回	三名
十七回出席	一名	十一回	二名
十三回出席	一名	九回	一名

精勤證中には次のやうな文字が記してある。

右者本年度ヲ通ジテ母親學校ニ精勤セシヲ以テ茲ニ之ヲ表彰ス　益々主婦トシテ母性トシテ精進セラレンコトヲ望ム

母親學校開會二十二日中　　回出席

年　月　日

四貫島セツルメント

天使保育組合

今回の最後に、「昭和９年頃、西宮市今津高潮町の吉田源治郎先生宅にて四貫島教会日曜学校教師のクリスマス・スキヤキ会」と記される写真を収める。

前列左２人目は吉田源治郎、その右の子供は３男摂（たすく）、その隣は母・吉田幸、その右隣は次男恵（めぐむ）、その隣は源治郎の母・吉田ゆき。吉田幸の真後ろが長女・敬子。

補記
吉田源治郎は、昭和９年に「夏期聖書学校の研究」という論文か著書を「基督教宗教教育講座」のひとつとして基督教出版社というところから刊行しているのではないかと思われるが、この著作は未確認である。

（２０１０年9月１０日記す。鳥飼慶陽）（２０１４年8月１２日補正）

KAGAWA GALAXY 吉田源治郎・幸の世界（６５）

第 65 回　四貫島セツルメントと吉田源治郎（23）

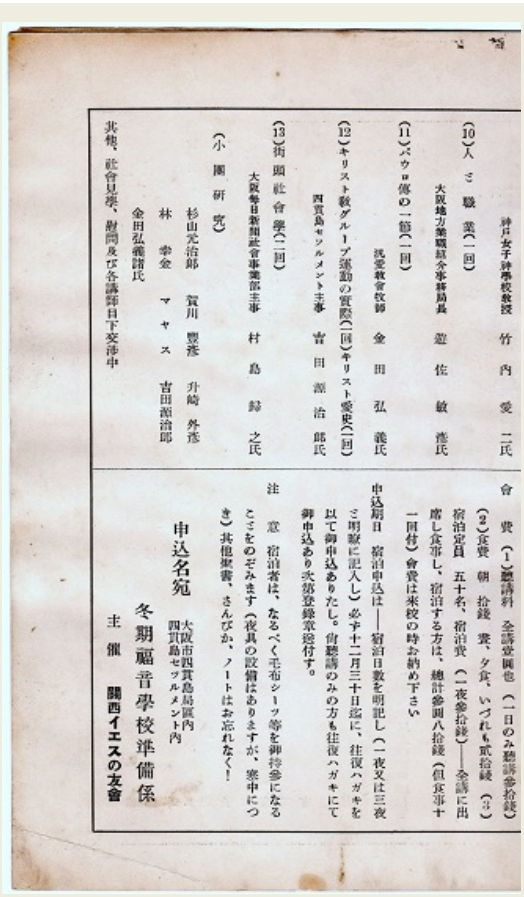
上の写真は、前回取り上げた昭和９年９月２１日の「室戸台風」で破損した「北港児童館」を、昭和１０年７月１０日に再建し、落成式を迎えた時のものである。

賀川豊彦の「武蔵野の森より」（『雲の柱』昭和１０年１１月号）を読むと、「大阪では四貫島セツルメントの十周年記念を９月２４日に催したが、昼も晩も大阪朝日会館が満員になって純益千五百円位あった。おかげで、吉田源治郎氏は去年の水害でやられたセツルメントの分館を修繕して、二階建ての保育所を建築することが出来るので大悦びである。」と書かれている。

「四貫島セツルメント十周年記念」に関係する写真は見つからないが、「北港児童館」の再建に加えて、保育所の「修繕・再建」も容易ではなかったであろう。

昭和１０年「イエスの友関西冬期福音学校」１月２日～５日・一麦寮

『雲の柱』に予告が掲載されているので、これをここに収めて置く。



一九三五年
イエスの友關西冬期福音學校

開校日程　昭和十年一月二日（水）から五日（土）まで
會場　大阪市外阪急沿線「西宮北口」下車瓦木村
高木東の宮前日本農民福音學校一寮舍にて

標　語　キリスト愛の新し き實現のために！

開校式　一月二日（水）午前十時受付（午前八時から）

閉校式　一月五日（土）午後五時

▽講師と講題△　（順序不同）

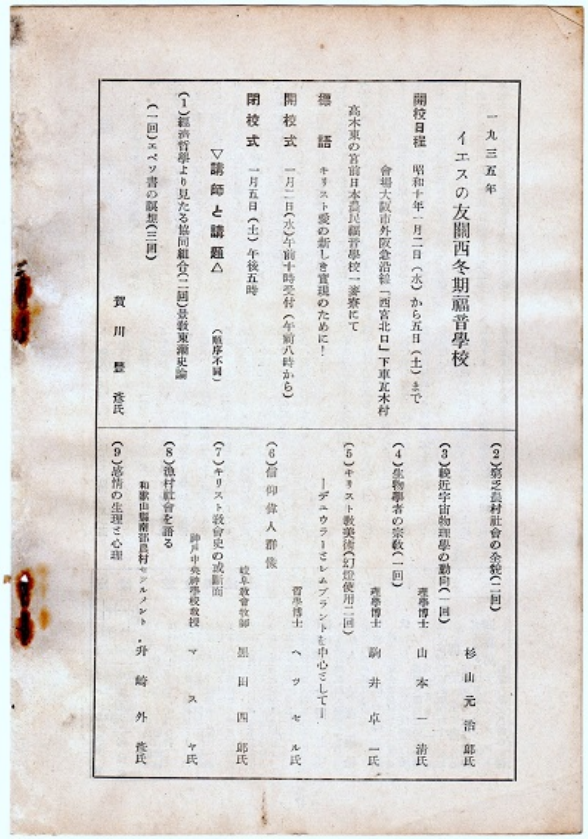
（1）經濟哲學より見たる協同組合（二回）　京都帝國大學教授　山本一清氏
（一回）エペソ書の誤謬（三回）　賀川豐彦氏
（2）基督教と農村社會の發展（二回）　杉山元治郎氏
（3）顯微鏡宇宙物理學の動向（一回）　東京帝國大學理學博士　山本一清氏
（4）生物學者の宗教（一回）　東京帝國大學理學博士　駒井卓一氏
（5）キリスト教異端（幻想使用二回）
―デュウラーとエルブラントを中心として―　哲學博士　ヘヴセル氏
（6）信仰隊人群像　岐阜教會牧師　黒田四郎氏
（7）キリスト教會史の或斷面　神戸中央神學校教授　マヤス氏
（8）農村社會を語る　和歌山縣有田農村セツルメント・升崎外彦氏
（9）感情の生理と心理　神戸女子神學校教授　竹内愛二氏
（10）人と職業（一回）　大阪地方職業紹介事務局長　遊佐敏彦氏
（11）パウロ傳の一節（一回）　筑紫教會牧師　金田弘義氏
（12）キリスト教グループ運動の實際（二回）キリスト愛史（一回）　西宮島セツルメント主事　宮田源治郎氏
（13）街頭社會學（二回）　大阪毎日新聞社會事業部主事　村島歸之氏
（小園研究）　杉山元治郎　賀川豐彦　升崎外彦　林學會　マヤス　吉田源治郎　金田弘義諸氏
其他、社會見學、質問及び各講師目下交渉中

會費（1）聽講料　全講會員也（一日のみ聽講參拾錢）
（2）食費　朝拾錢　晝、夕食、いづれも貳拾錢（3）
宿泊定員　五十名、宿泊費（一夜參拾錢）――全講に出席し食事し、宿泊する方は、總計參圓八拾錢（但食事十一回付）會費は來校の時お納め下さい

申込期日　宿泊申込は――宿泊日數を明記し（一夜又は三夜と明瞭に記入し）必ず十二月三十日迄に、往復ハガキを以て御申込ありたし。街聽講のみの方も往復ハガキにて御申込あり次第登録章送付す。

注意　宿泊者は、なるべく毛布シーツ等を御持參になるこゝをのぞみます（夜具の設備はありますが、寒中につき）其他筆書、さんびか、ノートはお忘れなく！

申込名宛
大阪市四貫島島屋内
四貫島セツルメント内
冬期福音學校準備係
主催　關西イエスの友會



昭和四年一月十八日　昭和九年十一月二十日印刷
昭和九年十二月一日發行　雲の柱　第十三卷　第十二號
郵便物認可（第三種郵便物認可）

第九回日本農民福音學校
生徒募集

趣旨　日本農村の精神的・經濟的更生のために基督精神による訓練と經營技術を與ふるを目的とす。此の爲に特にデンマークの復興の指導者グルントヴィッヒ等の精神に鑑み、特に人格的村塾的教育を施す。

場所　兵庫縣武庫郡瓦木村高木、日本農民福音學校一寮舍

開校　昭和十年一月七日――二月六日

主要授業科目　聖書講義、基督傳、基督教社會學史、農村傳道、農村問題、農村經營、農村社會事業、産業組合論、農村住宅、社會運動、社會進化論、農村衛生、農業組合史、農業簿記、立體農業、農學大意、農村副業、天文學。

職員
校長　杉山元治郎
專任講師　賀川豐彦
同　主事　藤崎盛一
同　教務主任　吉岡源治郎
同　升崎外彦
同　金岡弘義
同　科外講師　理學博士　山本一清
同　理學博士　湯淺八郎
同　理學博士　駒井卓
同　マヤス
同　中島重
同　林學會
同　ヴォーリズ
同　遊佐敏彦
同　竹内愛二
同　賀川豐彦
同　吉田源治郎
同　光雄
同　醫學博士　矢野（其他十數名）

定員　二十名
資格　農村に住居し農業經營に從事せる十八歳以上の青年にして
宗教的教養を欲するもの
申込　十二月十五日迄に履歴を添へて願書提出の事
入學　許可の上決定通知す
費用　授業料不要、食費拾五圓（内七圓五拾錢前納）被覆小使自辨

郵便物認可（第三種郵便物認可）

（定價本體金貳拾錢）

昭和１０年日本農民福音学校

（１月７日～２月６日・一麦寮）

近江兄弟社のヴォーリズ・朝日新聞社会事業団の浜田光雄など新顔が並ぶ。

一麦寮における「イエスの友冬期福音学校」の写真

「火の柱」第８３号（昭和１０年３月）所収。小さな写真で少し拡大して収める。

「イエスの友会第１４回夏期修養会」（８月１２日～１５日・奈良多武峰朝町屋旅館）

"THE PILLAR OF CLOUD"
KAGAWA'S MAGAZINE

イエスの友
會第十四回 夏期修養會
——八月十二日(月)午後から
十五日(木)正午まで四日間——

會場　奈良縣多武峰　朝町屋旅館
費用　聖講料一金貳圓也　宿泊費一泊三食付一金壹圓五拾錢の割　三泊四日間一金四圓五拾錢
順路　大阪市上本町六丁目大軌電車上六驛より乘車、「櫻井」驛にて下車、電車賃一上六ー「櫻井」間、片道六拾四錢、櫻井驛から山上まで約一里半、乘合バスの便あり（片道五拾錢、往復四日間通用割引券八拾五錢）當日は櫻井驛前に案内所を設けます

申込　二〇〇名迄受付、申込は七月末日迄に大阪市四貫島區西四貫島セツルメント内夏期修養會事務所宛往復ハガキにて申込まれたし登錄章を送ります
尚ハガキ復片には一切文字を記さないこと

▽講師と演題▽

1、南洋傳道史(一回)　南半球を歩く(一回)　早天禮拜講演(三回)　小關樂書研究(三回)
2、農村社會と都市社會(一回)　小關研究(一回)　賀川豊彦
3、エレミヤの召命と使命(二回)　小關聖書研究(三回)　杉山元治郎代議士
日本メソヂスト神戸平野教會牧師　德憲義
4、イエス傳研究の仕方(一回)　宗教生活と自然研究(一回)　神戸中央神學校教授神學博士マヤス
5、書翰に現はれたるフレッチヤーの片影(一回)　日本に於けるキリスト愛慕者像(一回)　小關ガラテヤ書研究(三回)　日本基督教會牧師　黒田四郎
6、植物進化論(一回)　ファブルの昆蟲記(一回)　京都帝大研究員　黒田松雄
7、農漁村傳道の新傾向(一回)　宗教生活と藝術生活(一回)　和歌山縣南部農村セツルメント主事　井崎外彦
8、罪惡觀の再檢討(一回)　小關ヒリピ書の研究(三回)　日本基督教會牧師　金田弘義
9、社會愛の學者オヴリンを語る(一回)　小關マルコ傳の研究(三回)　四貫島セツルメント主事　吉田源治郎

我等大和に憧憬しやう。大和は日本文化の發祥の地である。會場多武峰は、藤原鎌足公を祀る談山神社のあるところ、大化革新と氏族の神話を語りつゝ、新しき時代の聖愛による革新運動の狼火をあげたい。

ここは一關四月光一と呼ばれる現の幽境の地、雙峯たる老松のしげり夏雲多木の下かげ、凉風颯々清谷のせゝらぎと、靈都を忍ぶ雅趣すべきものがある。實に我等の修養の地として誂好である。我等はかつて此處に二夏現修養會をひらき、大いなる神の靈に浴した經驗をもつてゐる。本年は特に、オリムピアン、ヘライへの神の國運動の旗なり下へ久しぶりに歸朝される賀川先生を迎へることでもある。奮つて同志の參集を希望する。

（昭和四年一月十八日　第三種郵便物認可）　昭和十年八月廿五日印刷　昭和十年八月一日發行　雲の柱　第十四卷　第六號　郵稅金壹錢【定價本號金貳拾錢】

昭和１０年発表の吉田源治郎の論文から（いずれも『雲の柱』所収）

嬰児教育について―新しき教育単位の創設（２月号）

この論文は本連載の第６３回に収めた「未定稿」を数日後に完成させたものようである。

嬰児教育について

―新しき教育單位の創設―

吉田源治郎

何に其の發達が急速度であるかと驚せられる。そして今日では此の爲に兒童の「學齡」と言ふ觀念に一大革命を來しつゝある現狀である。言ひ替へれば人間一生の教育のプログラムの階梯の上り口に一つの新しい教育單位が受け入れられた譯である。

ナアセリースタールには二つの型があつて一つは英國型（兒童保護を主目的とした社會事業的）とも云ふべきもの、今一つは米國型（兒童研究を主目的とした）と云ふべきものであつて一九三三年のクッセルセージファウンデーション發行の社會事業年鑑（三二一―三二四ページ）には次の如くナアセリースタールの二つの型について述べてゐる。

英國に於けるナアセリースタールは、一九〇九年にその最初のものが設立されて以來、主として共の事業の焦點を細民地區の勞働母性教育とその體格不良の虚弱嬰幼兒保護の爲に傾注して、困難な社會問題の解決を助長する事に專心努力してゐる。だから、英國のそれは概ね博愛的な目的を以てゐる。之に引替

米國ナアセリー・スクール時代來る

「あらゆる仕事に於て最重要な部分は其の最初であるが殊にそれがかよわいものを取扱ふところの事業に於ては尚更さうである」―ソクラテス

「此の小さき者の一人を躓かする者はむしろ大なる石臼を頸にかけられ海の深處に沈められんかた益なり、汝等慎みて此の小さき者の一人をも侮るな」―イエス。

米國の教育界では一九二〇年以後ナアセリースタール時代が來たと言つてもよい程、これ迄の幼稚園やデーナーセリーの替りに又はその内部に、ナアセリースタールが到る所に開設せられてゐる。例へば一九二〇年には、僅かに三校であつたものが、一九三〇年末には、二六〇校の多數に上つてゐる。而も是は同國の教育局に報告せられた數であつて實際は遙かに多く此の種の嬰幼兒教育の學校が設立されてゐるこの事である。

僅か十年ばかりの間に三校から二六〇校に成つただけでも如

へて北米に於けるナアセリースクールは、主として生後十八箇月から五才に至る幼兒の研究と教育のために創られた一つの新しい教育機關であつて、その多くのものは大學と關係して併設せられ、兒童の發育の研究及び調査の中心として同時に又兩親再教育の實驗場として重きをなしてゐる。そして教育家のみならず心理學者、精神衛生學者、榮養學者、小兒科醫師、家政學者、社會事業家、社會學及び公衆衛生看護婦等のラボラトリーの如き觀を呈してゐる。私としては、兒童の嬰幼兒期に於ける研究機關としてのナアセリスクールの重要性を十分認める者であるが一年の經費に一四、五四四弗（これはあるカレジの家政科所屬のナアセリスクールの歳出である）以上も使ひ、保育費として一年七、八箇月は休みとして九箇月間に一五〇弗から二〇〇弗を保護者から徴收する（これは或る私立の兩親の會によつて設立せられたもの）樣なナアセリスクールは、いくら兒童研究の上に役立つからと言つて、之を其のまゝ我國で眞似る譯にはゆかないと思ふ。併もその一校當りの收容幼兒は平均二〇四人と云ふに至つては、兒童保護的施設として考へる場合には、到底之を我國の幼兒保護事業の現狀に照して考ふる時は、餘り贅澤が過ぎる樣な氣がする。

一九三二年の調査に依れば二〇三のナアセリスクールの內一九一校に登錄せられた幼兒總數三、八九五人であつて、其の中數は一七・八人平均數は二〇・四人であつて一校について四人乃至八六人の保育幼兒がある譯になつてゐる。保育時間は僅か二時間のものもあれば院內救護のところでは二四時間のものもある。其の中數は六時間乃至八時間となつてゐる。

勿論米國のナアセリスクールの中にも社會事業的な色彩の强いものもある（二六二校の內四三校は社會事業の目的を以て創られてゐる）併し何れにしても米國型のものは、極めて小數の幼兒に對して多數の各方面の專門學者が兒童保護と云ふよりも兒童研究と云ふ立場から取扱ふ傾向が强いもので有つて、或る統計に依れば教育實驗的なナアセリスクールに於ては平均收容幼兒數は十八人と成つてゐる。社會事業的なものに於ても米國のそれは登錄人員三一人で之がその最高である。

我國に於ては漸く嬰兒教育の機關としてのナアセリースクール運動が、數年前から紹介せられかゝつてゐるが、やはりそれにも明かに以上の二つの型と二つの流れが、看取出來る。そして結局今後數十年後には今日の幼稚園をもう少し貴族化し高級化した樣なナアセリースクールが盛に設立せられる時代が來るのではなからうか。私は、最近の著書や雜誌に於てナアセリースクールの紹介が頻々として行はれてゐるのを見て、一面幼兒保育の新分野の開拓を喜ぶと共に、其の多くが米國式の嬰兒學校の紹介に止つて、英國ナアセリースクール運動の先驅者であつた、マアガレットマクラミンやブレースオーエンが、貧困な家庭の幼兒の保育と母性保護の立場から、苦戰悲鬪の結果ナア

セリースタールを創設した精神や目的が餘り我國に於て顧みられない事を思ふて慨嘆に堪へない。

私は考へる。若し米國式なナアセリースタールの方法そのものは決して非難すべきものでなく、唯餘りに、多數の從業員、及び研究員を要し、經費がむやみに膨脹する事と餘りに少數の小供の教育實驗と云ふ事に囚はれ勝で、之を直ちに多數の要保護嬰幼兒の部屋する、我國の細民地區に應用する事は難かしい。

で私は、先づ英國に於けるナアセリースタールの實驗を紹介し度いと思ふその前にいさゝかナアセリースタールの沿革を記す事にする。

ナアセリー・スクールの沿革

教育の歴史は大抵その源をギリシャに溯るが、此の運動もやはりプラトーにまで溯る、彼はその理想國家の一重要教育單位として「公のナアセリー」の必要を說いてゐる。

近代に於ては此の運動は一七七四年にフランスの片田舍バンデラロシュの寒村に有名な宗教家、社會教育家、且つ農村社會事業の先驅者であるオベリンの幼兒教育の運動に刺戟されて起つたものである。

オベリンはフランスのクレッシュ（托兒所の意クレッシュとは馬槽を意味するこの事である）の創設者とも云ふべきで、彼がペスタロッチよりもフレーベルよりも早く幼兒保育兒童教育の問題について、優れた獨創的な考へを持ち又それを實際に試みたことは餘りにも有名である。

教文館發行「オベリン傳」參照ボリイスカウトの運動も彼に依つて事が出來、農村隣保事業に於ても彼は草分けである。

フランスで最初のクレッシュは一八〇一年に設けられ、一八四八年には人口二〇〇〇〇以上を有する地方には、必ず此の學校を設くべき規定が出來た。即ち一般にエコール・マテルネイユと云ふのがそれである。

フランスの母の手としてのエコール・マテルネイユ

エコール・マテルネイユとは「母さま學校」とも云ふべきであるが實は二歳から六歳迄の幼兒を保育する機關である。最近映畫にもなつて問題になつてゐる。「母の手」（レオンコラビエ原著）は都市の貧民窟に於て幼兒を保護する托兒所の生活を取扱つたものである。「母の手」（原名ラマテネル）に依れば、此の小說中の保育園の附近は、辻馬車を二臺竝べた程の幅の道路が雨が降つて水があふれてゐない時でも何時もじめ〳〵と濕つてゐ、歩道は犬や小供や酔拂ひたちにすら蔑しろにされてゐて、芥がいつもたまつてゐる樣な町通りの一隅に在つて、何とも判らぬ複雜な燒げくさい匂ひが永久に止さ家屋の古さにこびり附いてゐて離れない樣な空氣の所に建てられてゐる。その近所の二

十軒の居屋の、十四軒までは、酒屋で四軒は古道具屋である。

こうした環境に於て此の小説の中の保育園は、園長と二人の助手とに依つて保育の仕事が運ばれる事になつてゐる。園長と二人の助手さが二百人ばかりの子供の在庫品を處分し合ふので園長は二歳から三歳迄の幼兒を受持ち、助手はそれ〳〵三歳から五歳と、五歳から七歳の子供を受け持つ、そこでは、小使が二人あるが、相當に重要な仕事をまかされてゐて、幼少組に對して保育園を代表するものは園長や助手でなくて小使である。子供たちは、裕福な家庭の子供たちが母親よりも家庭教師に反つて親密さを有してゐるやうに、こゝで、子供たちがつねに探し求めてゐるものは、青いエプロン（これは小使の服裝）である——。小使は、所謂幼兒教育のわざには直接たづさはらないけれさ、常に幼兒を保護する萬端の平俗な仕事にあたつてゐるのは外ならぬ彼女であるために、子供たちは保姆に對するよりも、青いエプロンに、より多くの期待をかけてゐる。こゝでは保姆は日雇ひ女よりもすつさ小供から遠い事になつてゐる。此の保育園の一日の時間割は

午前六時：小使出勤

同　七時（冬は八時）：小使は直接小供の世話をやく例へば便所と洗面所へ園長のさしづを待つて連れて行く。

同　九時：便所洗面所行き、清潔檢査。

午後一時：昼食後右と同じ。

食事の時には幼少組の食事か小使が手傳ふ保姆の缺勤の場合は小使が幼兒等を預る事もある。

同　四時　子供等バスケットの分配着衣保姆たちと共に退出前の整理、これも小使の仕事

同　六時（夏は七時）：親たちが迎へに來る子は此の時間迄殘る事ができる。

同　七時：（夏は八時）小使退出。

此の小説では右の様に小使は一日十三時間から十四時間の勤務時間で、月八〇フランの報酬を受けて子供に取つては保姆より以上に母の手の役割をしてゐる事が描かれてゐる。然かもかういふ保育園で要求されてゐる小使の資格は殆ど無學に近いさ云ふ事さ身分の低いさ云ふ事を條件さしてゐる「母の手」の主人公ローズは大學得業士であり、學士であるさ云ふ事のためにわざ〳〵學位免狀を行李の下に押しかくし無學文盲であるさ云ふ事で押し通したその御陰で小使の口を滿くにして見出したのである。

私は餘りに本論から脫線した樣であるがフランスの保育事業さ云ふものの空氣を少しでも傳へたいさ思つて途章をしたのである（「母の手」の保育園に似たものが我國の幼兒保育機關の中にもありさうな氣がする）

私は、ナアセリースクールの沿革を語つてゐるのでした。橫道にそれた事をお許し下さい。幼兒教育の歷史に於て、勿論我

々はドイツ生れのフレーベルを忘れないであらう。フレーベルは、母親教育兒童教育學兒教育に實際と具體的な教育プログラムを與へた第一人者である事は云ふ迄もない。

英國に於けるナアセリー・スクールの功績

英國では産業革命の渦中に幼兒學校（インファント・スクール）を開設して、二才から六才迄の子供を收容した。彼に依つて一八一六年にかうした幼兒學校が初めて開かれたが、其後之はあちらこちらに設けられて幼稚園（英國に於ては一八七〇年フレーベル協會の設立以後幼稚園が盛に設けられた）が、その當初專ら上流階級のためであるのに對して、貧乏な親たちのためにあるのが此の幼兒學校であつた。然しそれはオーエンのすぐれた考へを必ずしも實現したものでなくて、小學校附屬の幼兒學校なぞは施設經營に於ても保育方法に於てもフレーベルの保育精神に少しもふれてゐないのであつた。

そこへ來たのがこのナアセリースクールであつて、これは唯に二才から入學を許す新しい型の幼稚園と云ふに止らず、獨特な使命と價値とを持ち、從來の幼稚園に對しても、托兒所に對しても乳幼兒保護方法に對しても一つの根本的な革新を促す所の新運動である。

英國に於ける此の運動の二大指導者として我々は女性である二人の名前を何時迄も記憶するであらう。それはロンドンの細民街に於て幼兒たちの保護と社會的必要に應ずる事を主目的としてナアセリー・スクールを創設したマアガレット・マクミラン及びグレースオーエンの二人の功績である。一九一八年には「ファクトリー教育條例が議會を通過した——此の條例一名「兒童の憲章」の施行された此の年は一八七〇年（此の年には所謂フォスター條例即ち兒童に義務教育を學習すべき事を規定したもので普通教育條例が發布された）以上に、英國の教育史上では光輝ある年とされてゐる。

一九一九年頃、マクミランやオーエン女史の下で働いてゐた教師等數名が、アメリカへ招待されて英國風のナアセリー教育を傳へた事になつてゐる。そして米國ではその主目的を最大限度に迄兒童の發達を計る事に集注し、英國の樣に社會上衛生上惠まれてゐない兒童を愛護すると云ふ事に最大級の努力を拂ふ事については從にされてゐる、と云ふより寧ろ殆ど考へられないと言つた方がよい。この事については前に述べた通りである私は先づ茲でマアガレット・マクミラン自身をしてその經驗を語らしめるであらう。

「私の經驗した。で、しば〳〵そのことを物語るであらうナアセリースクールと云ふのは、ロンドンの南東部の人口密住の細民地區で創められたものでした。此の方面の住民の勞働者と言ふのは、大多數が手に一定の職の無い人々で箱、鍋、鐵、荷造函製造などの實習を大工場で受けた外には、特別な職業教育を

受けたことのない不熟練工ばかりです。私達のナアセリースクールのまわりには、石を投げれば届く位のところに十二もの飲屋があり、町筋のあるものは日あたりが悪くて薄暗く日暮以後にはさても騒々しいこうした環境に於てのナアセリースクールの実験は、より一層価値がある譯です。仕事は困難であるがもしもこゝで成功すればそこでも奏効するであらうと考へられる。

こうした地区ではさまざまの邪悪が大量に成育する。私達の児童診療所へは十年間に、何萬と云ふ容易に一掃することの出来る軽い各種の病気に罹った児童等が蝟集して来たが、然しクリニックだけでは到底之等の病気を培養する病因を掃蕩する如何なる戦もいさなめないのでした。

成程クリニックに依つて我々は幾度でも児童の病気を治療することは出来た。然しそれだけに止まり、それは病気の予防については全く無力で且又同じ病気の反復をさうすることも出来ないのでした。で考へた揚句、廣い一つの遊場を貸しい子達のために設けて、こゝで子供等は清潔になりはしたが病気は依然として彼等に襲来するのである。

こゝにどうしてもナアセリースクールの開設の必要を痛感したわけであつて、もしも適切な設備をもつたナアセリースクールさへあれば、こうした病弱児をつくる一切の悲惨事の根本を絶つことが充分出来るに違ひない。

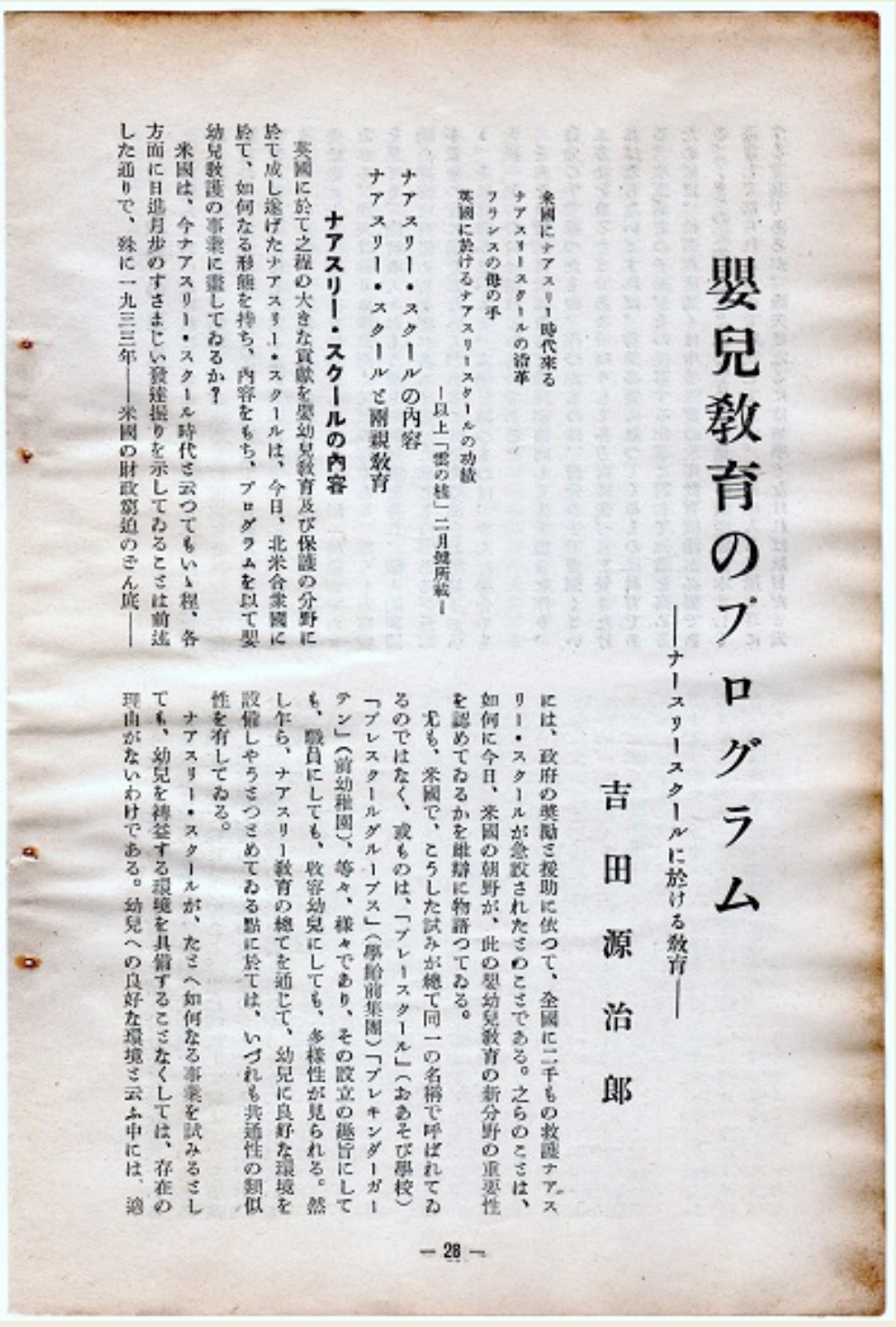
事実ナアセリースクールは新らしい習慣と新らしい要求とを持つ子供の種族を育て上げてゐる。且それに依つて今迄かつて見たことのない事物に母達の眼を開らかせることが出来るであらう。私達は実際こうしたことが達成されたのを實見したのでナアセリースクールが此の大事業を敢行しうることをこゝに確言する次第です。

十年間かゝつて児童診療所は如何なる病気をも根本的に掃蕩することが出来なかつた。それは病気の待合室を空間にすることが出来なかつたからであつたのです。

ナアセリースクールはどうであつたか？　此の幼児愛護教育運動の結果は子供等をこうした舊世界より遙かに遠く引離したのです。最早ナアセリースクールの幼児等にとつては診療所は殆んだ不必要な存在になつたと云つてもいゝ程の成績をみたのでした。中食のあとや午後にナアセリースクールの門が開かれるとき愛らしい幼児の一大隊がそれは美と優雅との流れとも云ふべきものが列を作つて繰り出る。そして薄暗い露路や四角を飲屋で固められてゐる汚ない四辻を横切つて行く。その光景に女たちは用事に急ぐ足をしばし止め、町角に佇んだりその邊をぶらぶらしてゐる男たちは優しい眼で之等のナアセリースクールで養護を受けて幼児の列に見入るのである。果して之れが此の悲慘の子供たちなのか！」マガレット・マクミランの思ひ出の物語りはつゞく。（一九三四・一二・二八日）

嬰児教育のプログラム―ナースリー・スクールに於ける教育

（『雲の柱』昭和１０年６月号所収）



嬰児教育のプログラム

――ナースリースクールに於ける教育――

吉田源治郎

米國にナアスリー時代來る
ナアスリースクールの沿革
フランスの母の手
英國に於けるナアスリースクールの功績
―以上「雲の柱」二月號所載―
ナアスリー・スクールの内容
ナアスリー・スクールと團體教育

ナアスリー・スクールの内容

英國に於て之程の大きな貢獻を嬰幼兒教育及び保護の分野に於て成し遂げたナアスリー・スクールは、今日、北米合衆國に於て、如何なる形態を持ち、内容をもち、プログラムを以て嬰幼兒教護の事業に當してゐるか？

米國は、今ナアスリー・スクール時代と云つてもいゝ程、各方面に目覺ましい發達振りを示してゐることは前述した通りで、殊に一九三三年――米國の財政窮迫のどん底――には、政府の奬勵と援助に依つて、全國に二千もの救護ナアスリー・スクールが急設されたことゝである。之らのことは、如何に今日、米國の朝野が、此の嬰幼兒教育の新分野の重要性を認めてゐるかを雄辯に物語つてゐる。

尤も、米國で、こうした試みが總て同一の名稱で呼ばれてゐるのではなく、或ものは、「プレースクール」（おあそび學校）「プレスクールグループス」（學齡前集團）「プレキンダーガーテン」（前幼稚園）、等々、樣々であり、その設立の趣旨にしても、職員にしても、收容幼兒にしても、多樣性が見られる。然し乍ら、ナアスリー教育の總てを通じて、幼兒に良好な環境を設備しやうとつとめてゐる點に於ては、いづれも共通性の類似性を有してゐる。

ナアスリー・スクールが、たとへ如何なる事業を試みるとしても、幼兒を禪益する環境を具備することなくしては、存在の理由がないわけである。幼兒への良好な環境と云ふ中には、適

度の濕度と温度、大量の日光と新鮮な空氣、給食の場合には、正しい種類の食料品飲料としての充分な水、横になつて休養する機會、傳染性の病氣の防止、負傷などの手當、氣持のいゝ身體に適合した被服等を含合する。その他に、過勞させぬ程度の然し、力一ぱいに運動させる種類の遊戯道具、自己發表を奬勵するところのもの、想像力を豊富にするところのもの、知識を增進するところのもの、さうしたことに役立つ遊戯材料を備へて置く必要がある。更に、此の環境には、多くの種類の良習慣の養成さるる機會を缺へなくてはならない。何となれば、幼少時代こそ、兒童らの速やかに、又容易に、習慣を形成する時期であるからである。若しも、幼兒を一人で放置して置けば、自分で、或る部分は善良な、或る部分は不良な、且つ又、いくつかの善悪いづれとも屬せない樣々の習慣を自らに發達させるであらう。善良な家庭と善良なナースリー・スタールとは相俟つて最善の習慣を發達させ、望ましくない種類の習慣の發生を防止するか、少くともそれを妨げるであらう。特に、しつけらるべき良習慣とは、例へば、個人衛生、食事、睡眠、自己には他人に對しての好ましい態度等である。教師と、賢明な母たちは、子供に、自分のことは自分ですることを學ばせ、決して、子供が他の人の助力を多く借ることのないやうに留意する。子供をして清潔な身體の方がよいと思ふやうに訓育し、便通排泄等についても、極めて實際的な態度をとらせるやうに數へることもナアスリー・スタールでの教師や母の行ふ大切な教育の一方面である。更に、幼兒を他との關係に於て、一歩々々、或は交代して順番を持つこと、自他の所有物を區別することなどを學ぶことに依て、好もしい社會的行狀を保つやうに導くこと、他の權利を犯さないで、自分を擁護すること、自分で情緒の上に統制を保つこと、その情緒的反感を好もしい樣式に於て指導すること、更に又、現代の家庭に於けるよりも、もつと大なる程度に於て、廣汎な範圍の經驗を、お話や、ペット（小動物、又は小鳥など）や、遠征や、多種多樣の遊戯道具などに依つて供與すべくナースリー・スタールでは努力してゐる。又、各種の柔軟性のある、構成的な材料を用ゐて、觀念を表白させるため、各樣の方法手段を具備するやうに試みてゐる、さうしたことに依つて、各個の幼兒は、自分の尤も興味ある、尤も得意とするところの仕事を選擇する。

こうした方法や、其他樣々の方法を構じて、ナアスリースタールは、理想に近いところの環境を幼兒に對して供與するやうにつとめてゐる。他の子供たちと一しよにゐる或種の子供は時にはその必要とする個性的な注意を得損ふこともありうるし又神經質なる幼兒にさつては刺戟をあまりに受け過ぎると云ふ弊もある。然し乍ら、全般的に云へば、他の子供たちの社會的接觸から生ずる利益及び、家族の者の姿を見ないで或時間を送ることを學ぶことは、充分、他の小損害を補ふて餘りがある

と云つてよい。

ナースリー・スクールと兩親教育

小規模のナアスリー・スークルでは、子供に對しての便益の要件が充たされれば、それで滿足してしまふが、他の教育的、社會的機關と特別な交渉を有する大規模のナアスリー・スクールに在つては、それ以外の他のプロゼクト（教育計畫）を普通包含する。之等のうち尤も一般的なのは、恐らく、兩親教育のそれであらう。學校が特に兩親再教育のプログラムを、はつきりと有つ有たぬに拘はらず、それは一保育幼兒の兩親の上に少なくとも、相當な影響を與へないでは措かない。ナアスリー・スクールと言ふ環境の內部で委兒たちが、伸び〳〵と育まれ、體重や食慾が增加し、より幸福になり、たやすく統御される有樣を目にする親達は、こうした變化を愛兒たちの上に齎すところの訓育の型に對して興味をもつやうになる。ナースリ・スクール及び、その職員たちと時折接觸すること、又は、敎師たちの家庭訪問、往朝子供たちを學校へ連れて行く際に敎師に對してする會話、或は又家庭に於ける話題について、職員の誰かと討議することは、之等は、相俟つて、兩親敎育の上有効に働きかけるわけである。こうした偶發的な影響の上に、多くの學校では直接にナースリー・スクールの保育の兩親を目標とした兩親プログラムを立案してゐる。卽ち、親たるものへ、又、數年後には結婚すべき娘たちに對しての敎育案を樹てゝゐる。かくの如き、兩親敎育及び、花嫁敎育のプログラムは、それ〴〵多種多樣であるが、すべてが、兩親に、知識と、示唆と、新らしい視點を與へることに依つて、兩親を、又女親たるべき者を裨益しやうと云ふ點に、一つの希望をかけてゐる。

ただ單に「實物敎授の中心」或は「見學の中心」としてのナアスリー・スクールを開設するだけでも、兩親敎育上相當な効果があることは云ふ迄もない。ナアスリー・スクールの近接區域には、資根のある敎師たちが、幼兒を取扱つてゐる狀況を見學することに依つてでも、育兒法を學びたいと云ふ熱心な多くの親達が住んでゐる。ナアスリー・スクールへ子供を托してゐる父母は、自分の子供等が、その同輩の集團の中に生活してゐる狀態を現實に觀察するときに、さうでない人に比して、自分の子供についてしば〳〵公平な見解を有つやうになる。例へば、自分の三歲兒が、ある作業が出來ないのを理由として、ある種の動作は、三歲兒にとつては、さても六ケ敷しいと云ふ主張をする母親が自分の子供の集團の中にゐる他の同年輩の幼兒たちが、易々とその仕事をやり遂げてゐるのを見て、しば〳〵從來の意見を修正することがある。或は又、自分の息子を不良行爲者だと思ひ込んでゐた母親が、多くの他の同年輩の男兒らが行動するやうに自分の子供は行動してゐたのに過ぎないこと、且又、頻繁に活潑な活動をする機會さへ與へれば、容易に統御されることを、往々學ぶことである。直接ナアスリー・スクール

に關係してゐない女性でも、學校にゐる幼兒たちの生活狀態を觀察することに依つて裨益されることが多い。聰明な婦人であれば、一流のナアスリー・スクールを訪問して、育兒と兒童敎育について、多くの新らしい觀念を蒐集しないでそこを立去ることはないであらう。更にまたナアスリー・スクールの見學から、價値ある知識と多くの新見地を得るであらう人々は、專門學校及び中等學校の學生達——今日では之はほとんど女學生に限られてゐるが——であらう。之は殆ど其の眞價を認められてはゐないが、ナースリー・スクールは、新進の小兒科醫にとり、又は、小兒齒科醫にとつて、近日中に結婚する若き女性にとつて、家庭保姆にならうとする娘達にとつて、小學校の低學年の敎師にとつて、敎育的の意味で優れた機會を供する。或るナースリー・スクールでは、母たち、敎師見習、看護婦、研究員、その他類似の仕事に從事する人々のため、理論的方面からと、實際的方面からの養成をするところもある。學理的訓練は、子供達と實際に接觸することに依つて補足せられ、それに依つて、學生は、その抱懷する理論を實地に試行し、熟練と自信とを得ることが出來るわけである。嚴重な管理の下にこうした少數の學生をナースリー・スクール學生助手として入學させるのが普通である。新の知き方法に依つて、ナースリー・スクールは、學齡前幼兒に關する各方面の關係分野に於ける專門的な從事者を養成する一つの手段ともなるのである。

大ナースリー・スクールの多くのところでは、學齡前幼兒に關しての知識を得ることに可成りの努力を拂つてゐる。多數の幼兒について、信賴しうべき材料を得るやうになつたのは、極めて最近のことで、此の數年間の出來事である。之までは我々はごんな材料を幼兒研究のために有してゐたかと云ふに、偶發的な覺書か、少數の小供たちについての個人的日記位のものであつた。然るに今や、大ナースリー・スクールでは、多量の研究資料を、幼兒の肉體的、知識的、情緒的、及び社會的發達に關して蒐集しつゝある。だから我々は、幼兒の食物につき、睡眠時間につき、習慣養成について、公然、當推量をすることふことが不必要になつたのである。こうした研究調査は、養成中の敎師をより善き子供の觀察者たらしめ又、兩親のためにはその子供たちについての研究指導の基礎を供與するのである。

「セツルメントに於ける指導者並に共働者の問題」

（『雲の柱』昭和１０年９月号）

セツルメントに於ける指導者竝に共働者の問題

吉田源治郎

はしがき

北米最初のソシアル・セツルメントであるシカゴのハルハウスの創設者ゼーン・アダムスについて、ジョン・デユウイー教授は「アメリカの社會生活、生活改善の凡ての運動は、アダムス女史のハル・ハウスに於ける努力と合致して進んで來た」と述べてゐる（彼女は、本年春、高年を以て永眠した）が、セツルメント事業と云ふものは、云はゞ、社會改造運動の實驗管のやうなもので、そこで實驗したところは、そのまゝ之を都市全體に、一府縣に、或は一國に押し及ぼして行つてほとんど間違のないことが多い。

ゼーン・アダムスの場合がそれであり、多くのセツルメント運動者の場合に我々は此の事の眞理を見出すことが出來る。セツルメントに於ける指導者は、それだけの、それ以下ではない重要な社會的位置を占めてゐる。そこに、セツルメントに於ける指導者竝に共働者の問題を考察するについての重要性が潜んでゐる。

セツルメントに於ける職員——共働者、指導者、ヴオランチイヤース——について論じやうとするに、考慮を要する數々の問題や思ひ出が、今更の如く私の心の原頭を雲の如く去來する過去十年の間に、自分と共に斯事業の創設の勞を分つた同志、同勞者として悲喜を共にした人々、外來の篤志者の一群、さうした人々の俤が、或は、ほゝゑましい、或は胸のうづくやうな痛ましい、感懷を伴つて、私の心に浮び上るのである。

セツルメントに於ける共働者、指導者の具備すべき資質は何であるか？　性別に之を見るとき、男女の間に如何なる得失があるか？　住込從事員と、非住込從事員、篤志共働者をめぐる諸問題、かうした働き人を一體我らは、どこから求むべきであるか？　共働者、指導者の養成機關及び養成方法は如何であるか？

私は、之を大體次のやうな項目に從つて考察してみることゝしよう。

（一）セツルメントの中心要件としての「人」

（二）セツルメントの型とその働き人の資質

(三)セツルメントの住込員としての男性と女性、共働者、外來共働者、及びセツルメントの主任者の資質
(四)セツルメントと指導者の養成

(一)セツルメントの中心要件としての「人」

セツルメントに限らず、すべて適當なる資質を有する「人」を離れて、良質の社會事業はありえない譯であるが、特にセツルメントは「人」を中心とする人格的社會事業であるとされる以上、それが如何なる事業、或は、施設を試みるにしても、先づ第一に斯く問題即ち、共働者及び、指導者の資質問題を考へなくてはならないと思ふ。

セツルメントの創始者達が「金錢でなくて、頭腦を――」と力說したことは、つまりセツルメントが、一つの人格投資的な社會事業を意味するからではなかつたか。セツルメントが、私營の形態を取らうと、公營の形態を取らうと私は、セツルメントは、飽く迄も人格的教育的社會事業であるべきであらうと思ふ。そのためには、セツルメントのワーデン、ヘツドウオーカーと種々な名稱を以て呼稱される主任者の人物、その共働者たるべき各部門の働き手の資質を充分に吟味しなくてはならないと思ふ。

セツルメント事業は、會館でもなく、財力でもなく、設備でもなく、それ等の凡てを超えて、人格を中心として「教育的」な作業を中樞とする事業であるべきである。この意味に於て、トインビーホールは、バーネツト夫妻であり、ブラウニングホールは、ステツドであり、ハルハウスは、ゼーン・アダムスとスタールであり、シカゴコンモンスは、テーラーであり、サウスエンドハウスは、ウツヅーそして彼等をめぐる共働者の一群であると云へやう。

私はよく聞かれる。セツルメントは、何をなすべきかと。何をなすべきか、先づ「人」を得よ、そしてその「人」を或る地域に住込ませよ、そのことだけで、セツルメント事業は、その發端を開始するであらうと私は答へるのを常とする。

セツルメントの意義も、その原初の時代に比較するならば、時代の變遷と共に、勿論、多少の轉移を見たことは云ふまでもない。然し、セツルメントが、ごう定義されやうと、それが單なる事務的な綜合施設であつたり、教育的方面を抜きにした單なるリクリエーション・センターであつたり、授産場であつたり、近隣小社會と何等の有機的協同のない一方的な慈惠的施設であつてはならないと思ふ。さう云ふところにセツルメントに於ける共働者、指導者の大いなる苦心、さうして、事業の特質が發見されやう。又さうしたところに、その働き人の資質を條件づけるいくつかの事柄が考慮されるべきであらう。

(二)セツルメントの型とその働き人の資質

セツルメントの指導者共勤者と云ふ中には、少なくとも次の如き五種類のグループが包含されてゐる。即ち、それは定住員非定住篤志共働者、財政維持者としての篤志者の一群、近隣居住民中から選まれた共働者、セツルメント經營の首腦機關である理事會がそれである。以上は、大體米國の主要なセツルメントのもつ組織（ウッヅとケネディ「セツルメント・ホライズン」第三十三章「セツルメントの要因」であるが、之れは又我國の今尚發達途上にあるセツルメントにしても、その組織のうちにかうしたグループを、其全部でなくてもそのいくつかを有しないものはほとんどなかろう。で、指導者共働者を論ずる場合には、叙上のグループについて、その資質、その職責などを檢討べきが順序であると思はれる。之れは、セツルメントを、その一々の個性といふか、型といふか。とに角個々のセツルメントの持つ内容特色から切り離してその働き人といふものを抽象的に種別して見た場合であるが、此外に今一つの見方があらうと思ふ。それは、各個々のセツルメントの型に從つて其働き人の問題を考察して行く方法である。

之れも其角度に依つてセツルメントの「型」と云ふべきものをいくつかに分類出來やうと思ふ。例へば、その所在する地域環境の相違に依つてする分類、即ち

大都市に於けるセツルメント

1　工場地帶に於けるもの

2　細民地區に於けるもの

3　下町に於けるもの

地方に於けるセツルメント

1　地方小都市に於けるもの

2　農村に於けるもの

3　漁村に於けるもの

その他、特殊なものとしては

1　水上生活者を對象とするもの

2　鮮人を對象とするもの

3　融和事業を其の特別な任務とするもの

其經營者の方面から見れば

1　大學などの附設事業としての學生をその主たる指導者とするもの

2　婦人を主要なる指導者共働者とするもの

更にまたその事業内容から見れば

1　醫療施設を主とするもの

2　リクリエーションを主とするもの

3　協同組合運動を主とするもの

4　授産、授職に主力を注ぐもの

5　クラブ事業、餘暇指導を主とするもの

6　青年教育、成人教育に主力を注ぐもの

7　兒童保護、母性保護を主とするもの

8　公衆衛生訪問事業を主とするもの

9　宗教的な教化事業に主力を注ぐもの

その他各セツルメントの事業内容に従つて細別すれば尚いくつかの「型」を見つけ出だすことも出來やう。勿論、さうは云ふものの之等の型が實際に於ひては互に入り組み錯綜してゐることは云ふまでもない。

セツルメントの指導者竝共働者の問題も綿密に討究すれば、かうしたセツルメントの各々の特色、内容、型に從つて論ぜらるべきが至當であらう。たとへば、大都市の工場地帶をその隣保地域とするセツルメントと、地方僻地の農村を隣保地域とするセツルメントでは、其事業内容も餘程異るし、從つてその指導者の資質にも異つた資格を要求されやう。或は又リクリエーションを主とするものと、公衆衛生事業を主とするものとでは指導者共働者に對して異つた技能を求められやう。たとへば、一例として、ニューヨーク市のヘンリー・ストリート・セツルメント（これは訪問看護婦による公衆衛生事業をその主たる任務としてゐるセツルメントである）では、次のやうな九箇條の勤務者の心得を掲げてゐる。

（一）訪問看護婦は、最高の教育を受けたる者であること
（二）醫師と看護婦との仕事を明らかにすること
（三）看護婦同志の道義を守ること
（四）宗教には絶對に關係せざること
（五）各種の社會事業と連絡をとること
（六）一つの命令の下に働くこと
（七）自分の仕事をよくレコードに記入すること
（八）金錢を拂ひうるところから徴收し、拂ひ得ないところからは徴收せざること
（九）勤務時間を正確に守ること

之れなどは、如何なる型のセツルメントに働く者にとつても一、二字句に修正を加ふれば、そのまゝ採用出來るセツルメント職員心得書とすることが出來るものでなからうか。

私は、更に進んで、セツルメントといふ特殊な社會事業に關與する指導者或は共働者たるべきものに要請せられる資質、不可缺の資質は何であるかについて、もう少し突込んで考へてみやう。此點については、ウッヅとケネディの先に引用した著述が極めて要領よく述べてゐると思ふので、その所說に從つて、セツルメント職員の有すべき資質の問題を點檢してみやうと思ふ。（「セツルメント・ホライズン」第三十三章「セツルメントの要因」參照）

セツルメントの住込員の資質として要請せられたるものは何であるか？　それはさして多くでないが、極めて重要である。一般的に云へば（之れは如何なる社會事業の從事員にとつても必要であるし、且、それが教育的敎化的方面を重視する事業に於ては尚更必要とせられる筈の資質ではあるが）先づ、品性、力量、高等教育（もし教育と云ふ文字が妥當でないとすれば、初步的でない社會事業上の教養）創發的な力、ヴイジョン、同

情、チーム・プレー（組こなつて作業の出來る）の本能、單純な氣持でもつて、隣人のあらゆる種類及び狀態の中に、混合しうる能力等々が數へられやう。

カノン・バーネット以來、セツルメント指導者に於て、望ましい資質は生活を理解しやうとする眞正の欲求、且又生活の最高の、最も民主的な表現を育成しやうとする欲求を有することであるこされてゐる。

叙上の外に、若し、萬全を望むならば、更にいくつかの資質を擧げることが出來やう。卽ち「高潔な人柄、清楚な服裝、聲音こ辯舌の修練、率直こ眞實、思想こその表白の明確、事務的なテキパキした人物であることなど。かうした特性を具へることは是非共必要である。こ云ふのは、さうした資質をもたないこ、しば〳〵、セツルメントの仕込員である指導者たちは、近隣の少年少女の間から現れる自然の指導者達の、より强力な生來の勢力に依つて、引つさらはれてしまふかも知れないからである。」（ウツヅこケネディ、四二八ページ）その上に感受性、適應性、人好のいゝこと、油斷のないこと、平均のこれた氣立、良い判斷力、ユーモア性のあることなどを附加へられたら申分がないわけである。

以上は、男女老若に拘はらず、セツルメントの指導者、竝びに、その共働者こして是非具備してほしいところの屬性こされるものである。

此外に今一つ大切なことが、斯問題をめぐつて考へられる。それは、セツルメント職員の性格の多面性、その才能、技能の多角性こ云ふことである。いくら有能の士でも、その人、たゞ一人では、セツルメントを形づくるわけには行かない。こ云つて、又他面、いくら多勢住込んでゐるこしても、その人々が、いづれも同じやうな考をもち、同樣の能力をもつ人々の一群でしかないこすれば之れもセツルメントにこつては好もしい要素であるこは云へない。多樣な、豐富な、複合的な經驗、能力、及び企圖こ云ふのが「セツルメント家庭」に有つてほしい特性であるこされてゐる。その最善に於ては、セツルメントの職員は、教養こ資源の世界縮圖であるこ云へる。で尤も有能なセツルメントの指導力は、ごうした人々に依つてつくられるかこ云へば、そこには、男性あり、女性あり、老若あり、既婚未婚あり、その所在する近隣小社會の多樣性に應じて對應出來る程の廣範圍の興味こ修練、意見を代表するところの一群に依つてであるこ答へられやう。

私は、此點、卽ち、セツルメント指導者のもつ多樣性、多面性、多角性こいふことを特に重視したい。之は、單なる事務的な、通り一遍の社會事業であるならば、大して考へなくてもいゝ一面かも知れないが、セツルメントに於ては、餘分こ考慮しなくてはならない資質の一面であらうこ思ふ。つまり、セツルメントに在つては、それがごんな些少な仕事であらうこ、常に、人格接觸こ、フエローシップに依る教

責作用と云ふ一點に、その事業の重心を置いて居るからである。

セツルメントとして、その社會事情の多様性、近隣の要求に多面性に呼應しえないで、いつまでたつても、又、いつになつても、通り一べんの、印刷された事業種目以外には、一歩も外に踏出しえないでゐるとすれば、何とそれは、悲しむべき指導者としての人格の貧困であらうか。

年齢、性、既婚未婚と云つた自然的な對偶の外に（之れは、その環境の如何に多くの場合支配されることが大であるが）セツルメントの指導者及び共働者のうちに、其の地方在住の異民族及び、異傳統の指導的人物を包含することが出來れば、それ程、その事業の内容に多様性を加へられることであらうか。これ米國の如きは國柄に於ひては特に考慮されてゐる方面であるが、たとへ我國のセツルメントは、其の社會事情を共にするところが多大であるにしても、若し、その所在位置が鮮人の密集地に置かれてゐるとすれば、當然、その共働者の中に、その代表者を有すべきであり、中華民國人の密集地域であるとすればその代表的指導者を共働者として包含すべきであらう。宗教の點に於ても、之は同然であつて、一例を擧げれば米國のセツルメントの中に、「チャーチ・オヴ・オール・ネーションス・エンド・ネーバーフッド・ハウス」（萬國民教會隣保館）と云ふのがありその中には、英語部、伊語部、支那語部、ロシヤ語部、ヘブル語部があり、又、それらの民族の各種の教會が、日曜日などには、時間を異にし、部屋を異にして、それ〴〵の教風に從つて禮拜を營んでゐる風景などもしば〳〵見られる。かう云つた風のセツルメントは、米國の大都市に於ては、決して珍らしくはない（之れはニューヨーク市のイーストサイドのセコンド・アヴェニューにある大規模のセツルメントの例である。）

今一つ——それは、セツルメントに於ける働き人の資質として是非共具はつてゐてほしいもので、前にも一言したところであるが、つまりその程度に迄協力作業をなしうるかと云ふ問題である。セツルメントの指導者として有力有能な人々を獲ることの望ましいことは勿論云ふまでもないが、その働き人が、各員相互への忠誠の念「セツルメント家族」を一作業單位としての、且つ、一全體としての事業に對しての忠實心など、かうした特質を持合すとすれば、それは至寶である。

更にまた、之れは直接セツルメント自身の指導者、又は共働者ではないが、セツルメントの職員に對して新鮮な活力とヴィジョンとを與へ、廣大な視野を與へる上に少なからぬ影響を及ぼすセツルメントへの短期の滯在者、訪問者についても私は記して置きたい。社會事業團體へは、それがどういふ種類のものであつても、比較的來訪者が多いのが常であるが、わけてもセツルメントへは、見學やら、來訪者やら、一時的住込の實習見習などが多いのが一般である。トインビーホールなどへは、毎年、米國から何十名かの團體が、社會事業實習見學を兼ねて定

期的に訪れて、ある一定の期間滞在してゐる様子である。又常に、國の内外から賓客が來泊してゐて、それが一つの特色ともなつてゐる。かうしたことは、セツルメント指導者が、ある一定地區の片隅にいつも住んでゐるためにやゝともすると社會を大觀する視力を失ひ易いことに對して、それを救ふ一つの機會ともなる。そして或場合には、さうした人々が、隣保地域の人々に對して遠來の隣人として何等か有用な奉仕をして呉れることが往々にしてある。私自身のセツルメントの働き人としての此の十年ばかりの間にも、さうしたことが、しば〳〵あつた。さうした機會に、大きく云へば、東西文化の接觸と云つたこともありうることである。

かつて私のセツルメントに中歐から一人の敎養ある青年が來訪されて一箇月あまりも滯在したことがある。そして何かの機會に夥多い中歐の傳說や、民謠をきかしてくれたことがある。さうした思ひ出は、いつ〳〵迄も、セツルメントの歷史の中に强くなつかしく印象つけられて殘つてゐる。

今日では、英國あたりでも住込本位でないエヂュケーショナル・セツルメントなどが盛に創設されて、漸次に、レシデンシヤル・セツルメント（住込セツルメント）と云ふ傳統的な形態のものは、數少なくなつて行く傾向ではあるが、然し、セツルメントが「住込の原則」といふものを力說したところに一つの重要な意味があるとすれば、それに關連して是非共望ましいことは、定住員である同一人格の連續的な勤續奉仕といふ事柄である。

或るセツルメントが如何なる發達の階梯にあらうとも、其の事業の原動力たるべきものは、永年の經驗豐かな住込員からなる核心である筈である。セツルメントの引着力の、且つ又、精力の源泉であるところの、自發的な方法と動因とを以て氣輕に必要に應對する特色を飽迄も維持しつゝも、長年の住込員たちは、その傳統を次代へと繼承し、近隣小社會の如何なるものかを新住込員に解明し、時には新來の主任者に對して彼等は、善き解說者となるのである。

或る一定のセツルメントの職員が、一體何を成就しうるかは主任者、及び、各部門の指導者たちの勤續年限の長短に左右されると云つていゝ。かう云つた所に、セツルメント職員の保健問題、及び、身體の强健といふこと、休養制度など考へらるべき事柄も少くない。それと共に、新精力の注入と云ふ意味で、時に、又しば〳〵活力に溢れた新分子が共働者として加入して來ることは望ましいことでもある。そのことに俠つて住込グループの各員は新らしく士氣を鼓舞され、老練な職員たちも新鮮な刺激を受けて事業について新らしい熱情を湧立たせ、かくして、斬新を所望する其の地區の要望にも應じるわけともなる。新來の共働者が、或は、非常に有能な人物が、來訪して逗留したとへ短期間であつても集約的な奉仕をさゝげて呉れることは

セツルメントをして、その事業内容の高度を維持し、精神を若く保つ上に於て必要である。

セツルメントの個性といふもの、その事業の範圍及び領域は種々の要素に依つて左右されるが、そのうちでも、特に、住込員の數、それを構成する男女の割合、勤續年限の長短、指導者の趣味等に依つて特質づけられる場合が多い。我國では、どちらかと云へば、職員には男性の要素が優り、米國あたりでは、女性的要素が強いやうであるが、理想的に云へばセツルメントの職員は、其の數が男女ほゞ均等にあるといふのが望ましいとされてゐる。又、指導者、共働者の數の多いと云ふことは、それだけ指導力が、優勢であるといふことと、多樣性を保つと云ふことと、從つて、所在小社會の各方面の要請に對して、比較的容易に應ずることが出來るといふ便宜をもつ。海外の有力な定評のあるセツルメントでは、設備も整つたものであるが、職員の數もそれに伴ひ、大抵二十名以上を有するのが普通である

セツルメント經營の首腦部としては、理事會について云へば理事會は、主としてセツルメントの財政的支持、及び、運用上の重責を擔ふ機關であるが、斯機關を構成する成員の質が、直接間接にセツルメント事業の上に、その働き人の上に影響を與へることは云ふ迄もない。理事會の構成は、住込員及び共働者と同樣に、出來るだけ抱擁的、多樣多彩な興味と感興とを包含し、主要な專門職業の代表者を含み、各種の業務の代表者をその中に包含することが望ましい。さうした機關に地區に代表者を參加せしめるといふことは、理想としては、願はしいことではあるが、實際上には、しば〳〵困難がある。と云ふのは、其の隣保地域が中流階級である場合には可能性があるが、細民地域であるやうな場合には、折角參加せしめた代表者が反つて當惑することがないでもない。たとへば、セツルメントの設備に關し、共働者の問題に關し、教育的機關としてのセツルメントの方針樹立についての問題等、主要な協議題が理事會に上程された場合などがそれである。とは云うものの、地域に深く喰入つて、その地域の小社會の代辯者でもあり、測候所でもありエンジニアーでもあるセツルメントの理事機關が、全然、その地元の住民の意志を考慮せず、たゞ外來の篤志家の一群に依つてのみ統制されるとすれば、そこにセツルメント事業の統制運營に關して地元の人々の參加の要求——それがたとへ表面に表はれないとしても——が、起ることは當然であり、又さうあつて然るべきである。そこで、さうした場合に應ずるものが、所謂セツルメントのクラブ評議會又は、館會議と呼ばれる一つの行政機關である。そして理事會や職員會に對し此の評議會が隣保地域の人々の意志を、希望を要請を代表して、從つて、セツルメントの運營上に少なからざる影響を及ぼす。この會議に於いて、隣人たちは、自分たちの强い利害關係を代表し、自らの意見を代表し、彼らの直接痛痒を感ずる諸問題について責任を以て參與するのである。（未完）

最後の論文は「未完」となっているが、その後の『雲の柱』誌には続稿はない。完成稿として別にあるかも知れないが未確認である。ともかく特にこの論文は、吉田源治郎が直接取り組んできた「セツルメント活動１０年の経験」を踏まえた重要なものであるので、長くなったがここに収めた。

（２０１０年9月１１日記す。鳥飼慶陽）（２０１４年8月１３日補正）